山弓連
平成10
第5号
99
HAPPY NEW YEAR

佐野連覇（称号）・渡辺（男）田中（女）初V

山日・YBS杯大会で熱戦を展開

11月23日、第12回山日・YBS杯大会が、武道館で開催された。称号者の部、男子の部、女子の部の三種別だが、ことしから種別分けの方式がかわって、女子称号者は、称号者の部に入り、男子の部、女子の部は、いずれも有段者（無段含む）のみということになった。競技方法は、それぞれ「予選4射2中以上通過、決勝は射詰め」という、従前通りの方式で行った。

◎女子の部

参加者29名。予選通過16名、まずまず。しかし射詰め一射目で12人が失中。残ったのは3人のみとなってしまった。そして更に二射目で2人がはずし、アッという間に、優勝が決してしまった。やや意外な出来。新人田中の健斗は賞されるが、ベテラン勢の奮起を望みたい。

◎男子の部

参加72名と、近年にない盛況だったが、予選通過32名は、イマイチの感。しかし、決勝射詰め競射は圧巻であった。三射終って残りは6人となり、四射目、五射目に1人ずつ落ちて六射目に残ったのは4人。息詰る熱戦となって、観覧席もシーンと静まり返った。六射目遂に2人がはずし、七射目新鋭とベテランの対決となったが若い渡辺が落ちついて的中させたのに対し、ベテラン小沢が力尽きて失中。ようやくケリがついた。観覧席からは両者の健斗を称える拍手が鳴りひびいた。

◎称号者の部

参加者23名、予選通過13名。この通過率も、やや意外な数字か？しかし、通過者のうちの10名が、3中以上であったのは、さすがと思わせた。決勝一射目で9人が落ち、残るは4人。以後一射毎に1人ずつが消えて、五射目を的中した佐野が優勝した。

入賞者は次の通り。

種別	順位	氏名（支部）	射詰成績
女子	一	田中香名（山梨）	○○
	二	渡辺葉子（富士吉田）	×○
	三	塩沢美絵（中巨摩）	×○
男子	一	渡辺元樹（富士吉田）	○○○○○○○
	二	小沢重平（南巨北）	×○○○○○○
	三	深沢 勇（巨摩）	×○○○○○
	四	柳本武彦（北巨摩）	×○○○○○
	五	雨宮正裕（東山梨）	×○○○○
称号	一	佐野辰巳（南巨南）	○○○○○
	二	深沢武重（中巨摩）	×○○○○
	三	宮崎克行（韮崎）	×○○○

平成10年納射会

昇格祝賀セレモニーも（秋山範士・白須錬士）

12月6日、武道館で開催。本年納射会と併せて、ことしの中央審査に合格した昇格者の祝賀セレモニーも行った。そのあと、各自8射の競技を行って、ことしをしめくくった。競技参加者は33名。（そのほかに、セレモニーだけ参加、または、運営役員として参加が10名）一年の納めの会としては、やや淋しい人数であった。

また、ことしの中央審査合格人数も、範士（推薦）一名、錬士一名と、例年になく少なく、こちらもやはり、やや淋しい人数であった。来年はみなさん是非がんばって、…。おおぜい並んでの祝射が出来るように。

競技は、参加人数が少なかったので、各自8射。男女、段位オープンの競技としたが、今回は、高段者、年配者が地力を発揮し、若い層を抑えて入賞を独占した。

入賞者は次の通り。

順位	氏名（支部）	的中	競射
一	佐野辰巳（南巨南）	6	○○○○○
二	松田恭昭（甲府）	6	×○○○○
三	中沢利正（西八代）	6	×○○

秋山照美範士昇格記念射会

山梨弓連初の範士誕生を祝って、11月3日（文化の日）昇格記念射会を開催した。射会参加者90名。その他（セレモニー、運営役員に参加、及び、会費のみ参加）を加えると133名の参加を得た。他の弓道射会では、めったに見られない参加人数であった。最初に会長祝辞「山梨初の範士誕生を機に更なる発展と飛躍を…」があり、矢渡しと、全員一手祝射のあと、新範士のみごとな（「優雅のうちに容姿凛然たるところ」を地でゆくような）答射礼でセレモニーを終った。つづいて午後は各自4射の競技が行われた。入賞者次の通り。

順	氏名（支部）	順	氏名（支部）
一	中込 実（中巨）	六	望月寿美（中巨）
二	山口明男（北都）	七	萩山忠夫（東八）
三	上坂正彦（北巨）	八	小尾幸夫（北巨）
四	三森君江（東山）	九	望月勝男（南巨北）
五	不動田光照（北都）	十	宮崎克行（韮崎）

会が終って、記念品の帛紗を頂いた。紫地に白く「和」と染めぬかれてあった。

第13回女子大会

10月25日 緑が丘弓道場で開催。高校の部16校93名、一般の部44名が参加。盛会。高校は団体戦（3人チーム）と個人戦。一般は個人戦のみ。各自6射。競技成績は次の通り。

種別		順位	氏名・校名	的中
高校	団体戦	一	桂 高校 A	10
		二	巨摩高校 A	10
		三	甲府昭和高校 A	9
	個人戦	一	友田育美（石和高）	6
		二	長沢文子（巨摩高）	5
		三	白井佑果（桂 高）	5
一般	個人戦	一	坂崎満子（東山梨）	5
		二	望月寿美（中巨摩）	5
		三	塩沢美絵（中巨摩）	4

関東選抜大会

正式の名称は、「第39回関東地域弓道選抜選手権大会」という長～い名前。標題は略称。会場は大宮。関東10地連からそれぞれ称号者と有段者各5名ずつが参加し、一手ずつ3回の行射を行う。そのうち、最初の一手については採点審査を行い、射技優秀者8名も選出する。山梨勢、かつて個人優勝、技能優秀賞を獲得したこともあり、「ことしも…」と張り切って出場したが、健斗空しく、入賞を果たすことは出来なかった。その中で荒井選手の、「技能賞イマ一歩」が光った。出場者は、荒井範夫、渡辺元樹、渡辺美奈子、中込実、深沢勇、佐野辰巳、不動田光照、小林弘子、坂本健二、河西伊三男の10名。団体戦の結果は次の通り。

地連		茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京一	〃二	〃三	神奈川	山梨
有段の部	的中	22	17	18	14	19	15	18	23	20	19
	順位	2	8	6	10	4	9	6	1	3	4
称号の部	的中	18	17	17	19	19	13	19	20	15	15
	順位	5	6	6	2	2	10	2	1	8	8
総合	的中	40	34	35	33	38	28	37	43	35	34
	順位	2	7	5	9	3	10	4	1	5	7

全国ねんりんぴっく大会

10月31日～11月2日、名古屋市で開催された。本県からは、監督兼選手坂本致夫、選手内田武春、山下達美、坂崎正樹、網倉徳夫、坂崎満子の6名が出場した。4月の予選会で選手が決定したあと、健康管理も怠りなく、強化練習も回を重ねて技を磨き、ことしこそ予選突破をと、張り切って大会に臨んだ。それまでの練習成果からみて、今回はかなり有望と考えられていたが、、これだけのねんりんをつんだベテランたちでも、緊迫した大会の雰囲気の中で、「平常心」と「ふだん通りの技」を保つのは、容易なことではなく、結局、一中差で、予選通過は成らなかった。惜しかった。このところ山梨は、いろいろな大会で、「一中差」に泣くことが多い。この壁を乗り越えることが、次への課題か？と、ねんりんぴっく選手団が教えてくれた。

事務局から…

◎評議員会が12月6日に開かれ、次のことが話し合われました。

- 来年度行事予定のうち、県施設を使用するものは12月25日まで、その他のものは1月10日迄に報告のこと。
- 役員改選に伴う選考委員会を設置した。1月上旬に選考委員会を開く予定。それまでに各支部で、役員改選についての意向を取りまとめ、選考委員からの意向聴取にこたえられるようにしておいてほしい。
- 関東地区錬士講習会（3月6・7日に小瀬武道館で開催予定。参加資格は錬士のみ。山梨の定員は5名）への参加希望者は、1月10日までに支部長を通して事務局に申しこむこと。
- 国体強化選手候補選考資料にしたいので、各支部、各地区、各市町村主催の各種大会成績を、事務局に報告してほしい。

◎この頃、時々聞くのですが、「○○の行事を知らなかった。うっかりしていて参加できなかった…」などの声。特に年表はじめの頃の行事に多いようです。一応、年度行事一覧表を全会員に配布してあるので、それを見てもらえばいいわけですが、もう一つ努力してほしいのは、支部長さんや市町村役員の方からの、「呼びかけ」のひと声です。是非よろしくお願いします。

◎寒さの酷しい季節。くれぐれもご自愛専一に、良い年をお迎え下さい。